

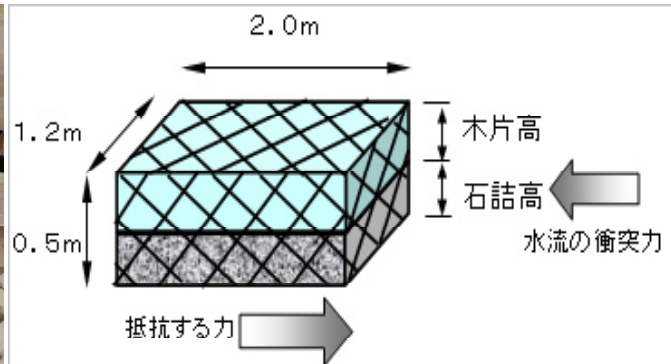
木片を利用した緑化型ふとん籠工法について

製材所から排出する木片（産業廃棄物）および石材・土を簡易な土木工法であるふとん籠の中詰材に活用し，安価で緑化が可能な新しい工法を開発しました。流速の遅い小規模な河川であれば流れることはなく護岸の働きもあります。また木片の腐朽とともに重量の減少は，そこに植栽したヤナギが成長するに伴い，根の力で周囲の地盤を捉えることで補われることも分かりました。ヤナギに限らず他の植物の成長やカモの生息も認められました。

また，木片ふとん籠の軽量性に着目して地上利用もできます。たとえば道路擁壁の基礎地盤が雨水で流れる恐れのある場所に設置することが出来ます。



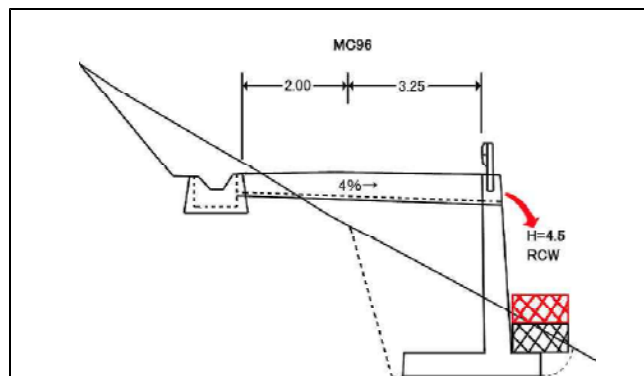
製材工場から余りとして出た木片



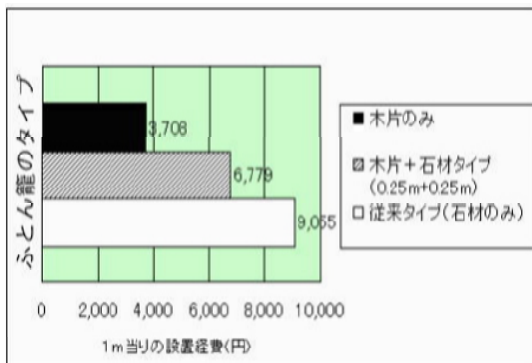
流水中の木片ふとん籠の模式図



ヤナギ挿し木直後の試験設置例



軽量であるため河岸擁壁の基礎地盤に負担をかけない。



従来の石材ふとん籠と木片ふとん籠の経済性比較